

令和元年8月26日(月)

宮崎第一高等学校 『小村寿太郎侯顕彰弁論大会』最優秀賞受賞 全国大会出場!!



©MIYAZAKI DAIICHI | Unauthorized reproduction prohibited

2019
August
26

令和元年8月26日、日南市国際交流センター小村記念館で「第38回小村寿太郎侯顕彰弁論大会」が行われ、**文理科1年の仲本愛さん(宮崎第一中学校出身)が、事前選考を突破した10名の発表者の中から最優秀賞を受賞しました。**

この大会は国際理解や国際協力をテーマにしたもので、仲本さんは「世界の平和のために日本と国連ができること」をテーマに、以前カンボジアでスラムやポル・ポト時代の負の遺産を訪問した体験や、その訪問をきっかけに今も続いている支援(これまで制服や絵本を送りました)のことに触れながら、「教育の立て直しこそがカンボジアの平和のために必要である」との主張を力強く堂々と述べ、見事最優秀に選出されました。

仲本さんは10月に東京の国連大学で行われる全国大会へ宮崎県代表として出場が決定しました。全国大会でも入賞を目指してがんばってくれるものと期待しています。



「国連の組織、発信力と日本の技術力、衛生管理のノウハウを結集して教育の土台を整えるべき」。カンボジアで教育を受けられずに働く子どもの現状に衝撃を受け、弁論大会で国連と日本が果たすべき役割を訴えた。

第38回小村寿太郎侯顕彰弁論大会で最優秀賞に選ばれた

ひと

愛さん
本 仲

INTERVIEW



ら募った。善意は段々物売り生計を立てる1ル30箱分になり、昨年、非政府組織（N GO）のツアーに参加する形でカンボジアへ届けに向かった。散乱するごみ、廃材後の内戦の影響は、現在も暗い影を落とす。

現地の図書館には熱心な本を読みあさる子ども姿があった。「意欲があつても学校に通うことができない。なぜ日本とこんなにも違うのか」とやるせなさがこみ上げた。医療や教育など各分野をリードする人材は極めて少なく、物資支援だけで打開できる問題ではないと痛感。「専門知識や技術を伝え続け、現地の『人づくり』に寄与しなければ負の連鎖は断ち切れ」と力を込める。将来の夢は産婦人科医。「開発途上国に渡り、医療技術の向上に役立ちたい」と話す。英語アイベート部に所属。高鍋町の実家で暮らす両親と祖母が見守る中、手にした栄冠に「伝えたいことは伝えることができた。家族や先輩、指導してくださった先生のおかげ」と頬が緩んだ。（武龍大郎）

小村寿太郎侯顕彰弁論大会

仲本さん（第一高）最優秀

日南

第38回小村寿太郎侯顕彰弁論大会（県奨学会主催）は26日、日南市の国際交流センター小村記念館であった。最優秀賞に宮崎市・宮崎第一高文科1年の仲本愛さん（16）が輝いた。優秀賞は同・宮崎西高理科1年の清水優吾さん（15）、宮崎日英協会会長賞は都城西高フロンティア科1年の與

倉大誠さん（15）だった。県内12校から26人の応募があり、同日は事前審査を通過した10人が登壇した。仲本さんの演題は「世界の平和のために日本と国連ができること」。カンボジアのスラム街を訪れた際、教育を受けられず働く子どもたちの姿に直面した衝撃を語った。

1970年代のポル・ポト政権下における大量虐殺など歴史的背景が影響し、30年以上たった今も同国では経済や医療、教育面などで十分な環境が整っていない現状を紹介。「国連の発信力に日本の技術力、衛生管理のノウハウを組み合わせ、教育の土台を整えるべき」と訴えた。

仲本さんは10月に東京で開かれる「国際理解・国際協力のための高校生主張コンクール中央大会」に出場する。また優秀賞の清水さんと共に、台湾研修にも派遣される（時期未定）。



最優秀賞に選ばれた仲本愛さん

新聞掲載

宮崎日日新聞
（8月30日掲載）

新聞掲載

宮崎日日新聞
（9月2日掲載）